

国際奨学生との交流

1月22日、2025年度国際奨学生のメラニーさんの成果発表会があった。昨年10月に来日した彼女は、京都大学大学院医学研究科で研究をされており、3月末に帰国とのことであった。京都におられながら、観光はほとんどしていないと言われていたことから、京都支部と奈良支部の会員有志で宇治を案内することにした。

3月21日(土)京阪宇治駅で待ち合わせ、英語のボランティアガイド付きで平等院を案内。その後、宇治川べりのレストランで昼食をとり、お茶と宇治のまち交流館「茶づな」にて、抹茶づくり体験をみんなで楽しんだ。午後には、京都支部会員が小学生のお嬢さん2人と一緒に合流された。抹茶づくりではメラニーさんが小学生のお嬢さんたちをやさしくサポートされている微笑ましい姿もあった。

彼女が所属しているブエノスアイレス大学の研究室に比べ、京都大学の研究設備は素晴らしいとのこと、充実した研究生生活を送られていることが分かった。その一方で、ブエノスアイレス大学の彼女の所属する研究室では多くの女性が研究生生活をしているのに対し、京都大学の研究室では男性が10人くらいいるのに対し、女性は4人ととても少ないとのこと。しかし、アルゼンチンでも、地位が上がるにつれて女性の割合が減っていくという点は日本と同じであることなど、女性の置かれている状況について情報交換をすることもできた。3月末には、広島に留学されているもう一人の国際留学生のエイラさんを広島に訪ねる予定であるとも話されていた。

国際奨学生の留学期間は短く、忙しい研究生生活だとは思いますが、研究施設近くの支部との積極的な交流や留学生同士の交流が、今後もあればよいと思った。
(文責 中道貞子)



平等院にて



宇治川を背景に



宇治川のほとりで昼食



抹茶をひく体験



みんなで記念撮影